

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム

「ほとんど行なっていない・・・11.1%」(就業応用力養成)

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)



略歴

法政大学大学院経営学研究科
キャリアデザイン学専攻(修士)
修了後、法政大学大学院政策創
造研究科博士後期課程に進学。
2011年3月、同博士課程中退。

e-mail:

shohji.shirai.36@hosei.ac.jp

研究室は新見附校舎2F

2012年度前期の「学生による授業改善アンケート」の集計結果が自宅に送られてきました。キャリア関連科目は、受講している学生たちの将来や就職とのつながりが深く、彼らの疑問や不安を解していけば受講満足が得やすいと言えるでしょう。そうしたなか、私が特に注目しているのは、「問3. 平均してどのくらい予習・復習等の時間外の学習を行なっているか」と、「問4. この授業を履修して感じたこと」です。受講した学生たちが「などほど、役に立つ!」と実感するようになるには、教員の努力も大切ですが、彼ら自身が本気になって学びとろうとする姿勢が求められます。その姿勢を判断する指標の一つとして、前者を注視しています。それに対し、後者は、どのような学びが得られたと感じているのかを大まかに把握することができます。担当している3種類の授業は、コンセプトは同じであっても、それぞれに狙いや意図、仕掛けが異なります。初学者向けの「キャリアデザイン入門」・「キャリアデザイン演習」では、受講生が大学での学びを理解すること、そしてその社会的意義を見いだせるようになることです。「就業基礎力養成Ⅰ・Ⅱ」では、大学の講義で身につける知識やスキルは実社会でどのように活かせるのかを考える機会です。「就業応用力養成Ⅰ・Ⅱ」は、これまでに身につけた知識やスキルを活かし、「仕事」をしていきます。大学の学びは、何も仕事社会だけにおいて発揮されるべきものではありません。しかし、高度な仕事に挑戦していくなかで、受講生たちは改めて「もっと学ばなければ」と実感しているのも事実のようです。それぞれの授業が相互補完的な関係に位置しながら、学生のキャリア形成に貢献できればと考えています。

◆ 予習・復習等の授業時間外学習を行った時間(1時限に対して)

問3	4h～	3h～4h	2h～3h	1h～2h	30分～1h	ほとんど行なっていない
全学平均	3.3%	1.3%	2.8%	7.5%	32.4%	50.1%
CD入門(月)	0.0%	0.0%	0.0%	7.9%	16.8%	70.3%
基礎(月)	0.0%	2.9%	2.9%	5.7%	37.2%	48.6%
応用	5.6%	22.2%	16.7%	27.8%	11.2%	11.1%

◆ この授業を履修して感じたこと

問4	知識が身についた	スキルが身についた	基礎力が身についた	応用力が身についた	思考力が身についた	進路選択に役立った
全学平均	71.1%	16.0%	22.2%	9.9%	17.3%	4.0%
CD入門(月)	62.4%	14.9%	13.9%	7.9%	43.6%	55.4%
基礎(月)	54.3%	28.6%	17.1%	14.3%	34.3%	57.1%
応用	44.4%	50.0%	11.1%	55.6%	27.8%	11.1%

(2012年度前期「学生による授業改善アンケート」の集計結果をもとに筆者が作成)



略歴 84年名古屋大学大学院卒。
京都大学博士(経済学)。84~89年
京都大学経済研究所助手、90~97
年滋賀大学経済学部助教授・教授。
97年~03年法政大学経営学部教
授、04年~IM研究科教授。

大学は子供から大人への切替期間

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

大学の4年間は、子供から大人への切り替え期間になっています。子供時代は、与えられた課題を速く正確に解決すると褒めてもらえます。他方、大人は、自分の頭で考えて行動することを求められます。課題が与えられるのを待っていると「何やってんだ！」と怒られます。子供と大人の差はとて大きく、多くの人は悩みます。試行錯誤しながら、少しずつ自分なりの「大人スタイル」を確立していくことになります。

以前は、企業に就職してから徐々に大人になっていくことが許されました。新入社員教育とは、大人になる教育でもありました。しかし、育成の時間的余裕をなくした企業は、新入社員にも最初から大人であることを求めるようになっていきます。そして、大学教育にその部分を要求しています。昨今の状況に大学側がとまどっている理由の一つは、そこにありません。子供から大人への移行をいかに円滑に行うかを考えていかなければなりません。難しい課題ですが、このプロジェクトで答えを出していきたいと思えます。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。
70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11
年帝京大学と法政大学職員。
11年~法政大学教員

言葉で気持ちをつなぐ

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

DVD 講座出前講義を英語で行うチャンスを得た。学生たち・担当教授もこちら「考えて行動する」を実践する貴重な機会となった。突然出てきた課題に対して、どれだけ頭を回転させてそれを言葉に表せるかの真剣勝負の感であった。DVD教材を昨年2本制作、今年も新たな2本に取り組んでいる。そのうちの1本の内容「企業が必要としている英語コミュニケーション能力ー文化や背景も聴く」が完成したらぜひやって欲しいと教授からお言葉を頂いた。自分の商社時代の経験が講義でもDVD制作過程でもお役に立ってとても嬉しく、こちらが励まされた次第である。皆で気持ちをつないで学生たちの就業力を高める取組みのやりがい改めて実感した。



略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事
を経て人事コンサルタントとして独立。
キャリアカウンセラー資格取得後は多くの
大学でキャリア論の講師を務める。

社会人のキャリアと学生のキャリア

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

後期は人間環境学部の「実践キャリア論」を3コマほどお引き受けしております。テーマを「就社・就職・就場」という3回に分け、入社した企業に固有の就社のキャリア(企業特殊的能力)、専門性を見極めて社会で通用する就職のキャリア(特定専門能力)、そして習得した専門性と人的ネットワークを活かして自分の活躍の場を自分で創造する就場のキャリア(企業家精神)と解説しています。

しかし、就労経験のない大学生に社会で通用するキャリアの概念はなかなかイメージできません。そこで、ゼミ活動やサークルやアルバイトでの経験にたとえて説明しています。キャリア教育ではキャリアを社会人のものとして語られることが多いようですが、学生には学生としてのキャリアがあり、それは社会人のそれと通じるものだと私は考えています。

◆ 東京家政大学のイベントに参加

新しい事業では、複数の大学がチームを組んでそれぞれのテーマに沿った取組みを実施、展開していきますが、この試みは各大学のカラーの違いに触れ、お互いを知る貴重な機会でもあります。そんな中、本学が所属するグループのメンバー大学である東京家政大学より「秋のいもほり大会」にご招待いただきました。東京家政大学の学生のほか、近隣の幼稚園から園児たちと保育士の方も参加する興味深いイベントです。本学から学生と平山課長が参加し、さわやかな気候に恵まれた月曜日、秋の収穫を楽しみました。 < 事務局 >

秋です。秋と言えばお芋です。このたび産業界ニーズGPのご縁で、東京家政大学の地域連携取組みの一つである「いもほり大会」に参加してきました。これは地元の農協と連携してお芋の栽培から収穫までを体験するプログラムで、学生のほか地元の幼稚園児も参加しています。当日は秋晴れの日差しの中、学生たちが園児たちと一緒に楽しそうに芋を掘る様子を見学してきました。そう・・・最初はただの見学のつもりだったのですが、東京家政大学さんがわざわざ長靴と軍手を用意して待っていましたということで、結局芋ほりに参加。スーツが土埃まみれになりましたが、楽しいひと時を過ごせました。本学から参加した学生も貴重な男手ということで大活躍してくれました。(収穫したお芋は事務局の矢野君にあげました。) < 事務局: 平山 >



仲良くおいもほりする園児たち



就業力を育てる3ステップシステム